

尚方造紙標
上

特別
12
2533
1



尚古

造纸术

全部二卷

鷄鳴居



門 42
號 2533
卷 1

尙古造紙拵目録

寶永二年伊勢御影叅の古圖并御奇瑞記録
同叅宮人江施行の種類人數書の写

寛永九江戸繪圖の内元吉原徐宜町等の圖

明曆三年正月改板江戸繪圖の内元吉原堀町等の圖

延宝九年堀町葺屋町市丸西屋并操座小芝居等の圖
延宝天和の頃操座小芝居名代者板の圖

同頃中村座市村座役者附の圖

同頃播磨芝居より官古路豊後浄瑠璃落物外題の写

同頃大坂竹本筑後芝居上り曾根崎心中辰松八郎並衛口上の写

泉屋文庫



昭和三十一年
九月二十七日
購求

七種繁曾我淨瑠璃市村若太夫稽古本の写

延享細見今戸橋舟宿紋号の写

近藤助五良ごうけ百人一首元本の圖

享保十三年出板後者金之揮の写

佐渡島長五郎うしろ西長哥

市川園十郎子路員米曾我五良せり板

扇屋夕露の艶翰并襦の模様寸法の写

寛文二年京都大地震の圖

延寶三年出板年代記の写

元禄五年出板年代記の圖

寶永二乙酉年御影糸流行御奇瑞記録并繪圖
今文政十三庚寅年迄百九八年ニ及ブ

合人親王の御ひり我綱乃全とむま
是天照左神とあがめまのてしとま道
乃びををち成運をもくふ百姓實
理を商客加もあつたれ津乃あぶ
かりあなごりて介持板とせしおせは
我親とくくみく作人の親とせし
がくくとのし申謀ふれぬのは奇瑞
恐危れ毛乃出行程を疑ふ事良し定

せのさうけあてがまゝ家
 うちあぞうのゑ家門
 御くさうと移り女北枝
 こん甲たみく男と様
 と親族よりやまゝめ
 ぬそ後らせとまゝめ
 小虎殿あまごも御ま
 やとまごごご親され換
 子を成あまご又母ごごむ
 福んあかろるごかごと親
 ごとまのわらむりせゆ
 乃と目ごごあごのこて小
 命あうりてよりたせめ
 小はあごごごのむとまご

寛永二年卯月朔日此とより御陽
 条通万年町小松屋を居つと一持お
 居あり後ろふ一五年めつと一居お
 名と長八と。小守屋伏見の者中
 年十二歳とるやは家以つと一居お
 小見ありばおんが候とてお外お
 つとおあそびの所とばつと一居お
 何と一有御百又此後よりち彼
 と御そとつに遊るがと。お子
 女おはつてはつと一居お
 一とより日おまを御つと一居お
 乃乃人おとるつと一居お

夫れありひとち御つと
 りりなり乃るをと御後
 とつごめつとあの人と
 御ごかち御後を
 乃乃らちち家内なれ
 とも御りせの御と
 系とごごあのだと
 乃御の人とごごあ
 せの御とごごあ
 寺の御とごごあ
 とつと一居お
 物とつと一居お
 乃乃を御つと一居お



宿願とて松坂あてにば家
 小の袋百貫とみ千文つと
 月いけ袋よりも拭小袋百
 文つと袋百貫十貫本袋百
 もんづつたごす
 と系室町乃角より布き入
 るすと袋も一内小袋百貫と
 公のぶら
 室町通加賀屋平三郎より
 金百貫と袋とみ千文つと
 ぶらひかぐやの袋倍倍と
 と元の袋あり

▲同町うめや平ぬらふのめん
 乃切ふぬらひ下帯ゆりま
 どまう人此の袋とみ千文
 ▲室町月廿日おびひに
 ぬらひぬらひ大袋海軍の
 即よりぬらひぬらひぬらひ
 と片町おびひぬらひぬらひ
 即月廿三日ぬらひぬらひ
 ぬらひぬらひぬらひぬらひ
 ぬらひぬらひぬらひぬらひ
 ぬらひぬらひぬらひぬらひ
 ぬらひぬらひぬらひぬらひ

と系通加賀屋平三郎より金
 百貫と袋とみ千文つと
 同町通加賀屋平三郎より金
 百貫と袋とみ千文つと
 ぬらひぬらひぬらひぬらひ
 と本指十貫より大袋百貫
 毎月米十石つとぬらひぬらひ
 即日より千三日中を袋と
 ぬらひぬらひぬらひぬらひ
 より下此童おびひぬらひぬらひ
 ぬらひぬらひぬらひぬらひ
 百十六ぬらひぬらひ

▲小袋ぬらひぬらひぬらひ
 おびひぬらひぬらひぬらひ
 ぬらひぬらひぬらひぬらひ
 ▲今指ぬらひぬらひぬらひ
 ぬらひぬらひぬらひぬらひ
 ▲中のぬらひぬらひぬらひ
 ぬらひぬらひぬらひぬらひ
 ▲本指ぬらひぬらひぬらひ
 ぬらひぬらひぬらひぬらひ
 ▲ぬらひぬらひぬらひぬらひ
 ぬらひぬらひぬらひぬらひ


大津百艘中向より航之き
ととらん私とてねけ美と
やんをたつとす
やんを舟りら申より家進
舟をそととあしありた向
とのせ後そあるひの大津の
ふる備ふり向の航をそた
系安人務手あしとゆくの
とらん膳御城舟たつと
舟と付とめ給ふ所備
けすのりとおし船場をてけが
るれやうふ後付とれ

ゆり事年ふの日二万六千お
るひと二万七千とぞとす
▲新うらが町中ふ天祥橋
ふおかつとづとぞとあふ
是のた申ふて着とがらよ
しとあつととあり
▲とらん橋乃つめとらりま
忠清とあしがらりとそと
しとらん毎日二万五千也
▲ふあやよりととふけが
まの食とつめとらとづけあ
りのと入あつとあり

船田れ橋づめ酒や去在橋つ
残二つとぞとあしとあし酒
ととりのふ海とあし
若津うたふ餅をそとまづ
ととねけ系りあがりら十
つとぞとあしひかすととら
中業や酒やあつとふおたり
それくのらととらたあひ
宿とあしあの湯とらりま
り産不修付とととらある
ととととあしとら海とあ
しととらまづととねけ美

▲長崎ちくさやあしとあし
八万をれ橋ふおりの引とら
とらんうらけとと人のた
まうせ毎日とととら
▲中れ橋ひとらとあしより八
万をれ橋ふおりの引とら
とらんうらけとととら
▲伏見とらと町より八万
あしと毎日二万七千とら
とらんうらけとととら
▲増とらと小間物や中より八
万をれ橋ふおりの引とら

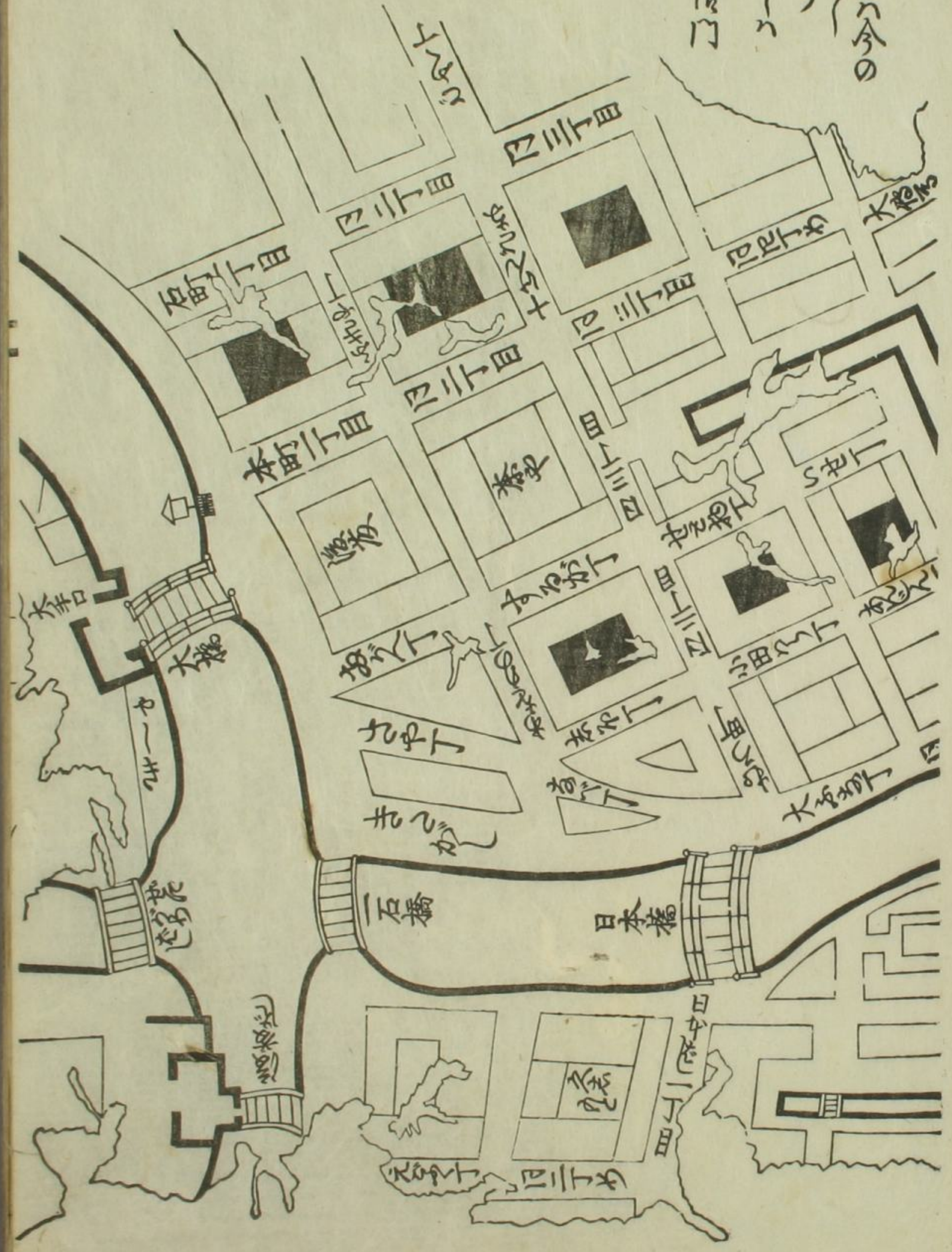
右乃外家^{せんげん}新^{あらた}より素^{もと}家^{いえ}人^{ひと}む方^{かた}方^{かた}のゆへにはた中^{なか}此^{こゝ}町^{まち}人^{ひと}を
 志^{こころ}す所^{ところ}者^{もの}へおむとあつとる事^{こと}あけてかどと今^{いま}つて海^{うみ}く
 志^{こころ}すもくは比^ひ島^{しま}又^{また}大^{おほ}坂^{さか}小^こおつて同^{どう}知^ち月^{げつ}中^{ちゆう}旬^{じゆん}より家^{いえ}か
 こふ御^ごをひひかむ事^{こと}はなすめれはひは人^{ひと}のあつ
 りひはるど暇^{ひま}あよんむひひひ

。此^{こゝ}二^に朱^{しゆ}を施^せはと有^あ元^{げん}録^{ろく}金^{きん}の二^に朱^{しゆ}判^{はん}なるべし其^{その}形^{かたち}今^{いま}の南^{なん}録^{ろく}とハ
 異^{こと}なり七^{しち}トク尤^{なほ}金^{きん}なり  此^{こゝ}次^{つぎ}粗^{あら}此^{こゝ}の如^{ごと}きものよして重^{おも}さ六^む分^{ぶん}有^あ
 元^{げん}録^{ろく}十^{じゅう}年^{ねん}新^{あらた}金^{きん}より鑄^{いそ}ところよして宝^{ほう}永^{えい}七^{しち}年^{ねん}四^し月^{げつ}より通^{つう}用^{よう}停^{てい}
 止^ととなり一^{いつ}より一^{いつ}高^{たか}古^こ金^{きん}の二^に朱^{しゆ}と称^{せう}するもの數^{かず}品^{ひん}何^{なに}れども茲^{こゝ}よ
 畧^{りやく}に且^{かつ}當^{たう}時^じの二^に朱^{しゆ}といへる天^{てん}明^{めい}八^{はち}年^{ねん}四^し月^{げつ}より永^{えい}代^{だい}通^{つう}用^{よう}の令^{れい}有^あ也^{なり}

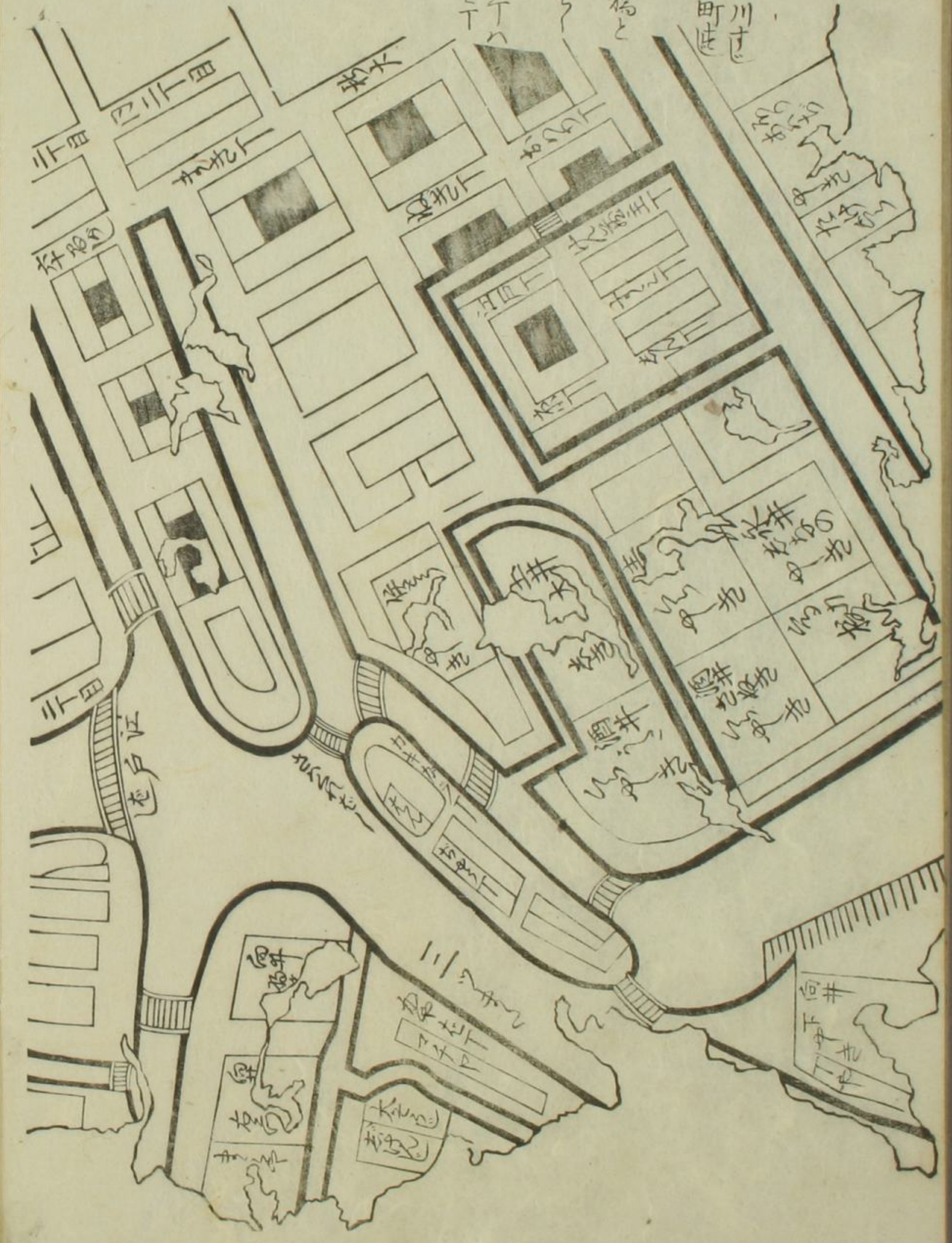
寛永九年 申十二月 重開板 江戸繪圖跋云

- 一 此繪圖大なるを系すやいんた是ハコトの直なり右に介
 東西南北の諸侍乃御座鋪田小路尺寸綫ありそひ
 むのうざ立ちあつび一車中く難斗
- 一 東ハ廿んあめ口少しとらえつとく淺草迄そままで
 日本橋より廿に五里立はく真列海道是也
- 一 南ハ芝品川口こもも二十里乃外立續東海及これえ
 西ハ碓町はきり小路町口武蔵野の系五の極中まで
 日本橋より東海道三十七八里立續是也水路道也
 小ハ神田板橋口より中まで二十に五里立つく也
- 一 右に道筋方角お遠敷多可有法座の偏に及覽哉
 たりゆふ而已

大町一の今の
 こまのまち
 後のまち
 後をまち
 のの
 こまの橋門



△平青川
 ○平黄町
 さのこれ橋と
 あま
 日さのこれと
 あま
 さのこまのまち
 ののこまのまち
 まま



明曆江戸繪圖跋

此開板盛圖有所先記者雖然相其攸錯互大夥是
 故無憚改今技正以廣于世加旃益取西南之好景
 新添焉或人曰熟視之則不覺而坐我湘左者也

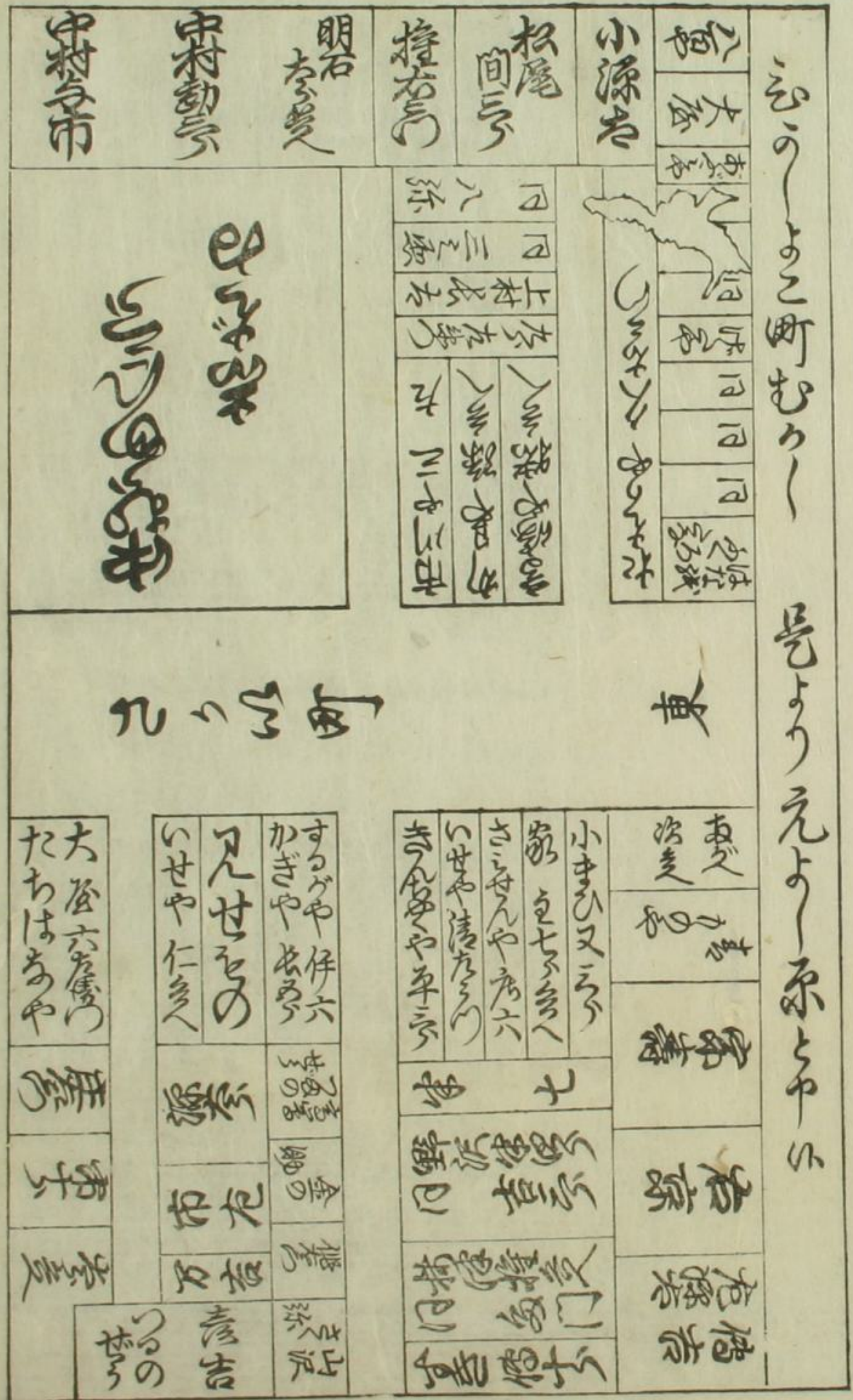
千時明曆三丁酉年正月吉辰

板本江戸日本橋二丁目

太郎右衛門

寛永九年ヨリ明曆三年迄二十六年也
 其年正月十八日十九日江戸大火言吉原町類焼ス
 日四年四月十三日萬治改元新吉原今の地ニ移ル

延寶九辛酉年 塚屋町之圖



同園小孫宜町と云々せし処今の長谷川町不當なる中村勘三郎是
 居中橋より孫宜町ふうりふと云々此処迄也
 明暦板江戸繪家小堀町ありて後き屋田に未見へ長谷川市村屋
 寛永十戌年 却免き屋田明暦の地を小堀町の内にありて又
 西板茂小菅屋町の号西替町のを記すあは今の金吹町とありて是
 二町うちの古く延宝四年の号小菅とて今も奉りあり
 宮古路豊後掾徳吉本の内題名古屋心中のり後き屋田とて
 ありて前小出せし操座の内天下二播磨とありて又
 後者も操座勤めや村上常五郎と云者為人形をひる不取

三九



